

介護職員初任者研修課程 カリキュラム

クラス名 恵

通学形式 (実施しない形式を削除してください。)

研修 番号	研修項目名		研修科目名	規定 時間数	対面 で 実施する 時間	演習に充てる 時間（2.5時 間以上）	合計履修 時間数	履修日	担当講師名	講師 要件 番号	備考
1	職務の理解		(1)多様なサービスの理解	6	3		3	R7.6.7	結城敦也	⑥	
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解			3		3		R7.6.7	結城敦也	⑥		
2	介護における尊厳の保持・自立支援		(1)人権と尊厳を支える介護	9	6		6	R7.6.14	高橋敬太	①	
(2)自立に向けた介護			3		3		R7.6.28	遠藤英子	①		
3	介護の基本		(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	6	2		2	R7.6.21	佐藤智鶴	⑤	
(2)介護職の職業倫理			1		1		R7.6.21	佐藤智鶴	⑤		
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント			2		2		R7.6.21	佐藤智鶴	⑤		
(4)介護職の安全			1		1		R7.6.21	佐藤智鶴	⑤		
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携		(1)介護保険制度	9	3		3	R7.6.28	高橋敬太	①	
(2)医療との連携とリハビリテーション			3		3		R7.7.5	加藤真道	②		
(3)障害福祉制度及びその他制度			3		3		R7.7.5	結城敦也	②		
5	介護におけるコミュニケーション技術		(1)介護におけるコミュニケーション	6	3		3	R7.7.12	高橋辰	①	
(2)介護におけるチームのコミュニケーション			3		3		R7.7.12	高橋辰	⑥		
6	老化の理解		(1)老化に伴うところとからだの変化と日常	6	3		3	R7.7.19	高橋智恵子	①	
(2)高齢者と健康			3		3	R7.7.19	石川学	②			
7	認知症の理解		(1)認知症を取り巻く状況	6	1	1	R7.7.26	三田卓也、石川学	①		
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理			2		2	R7.7.26	三田卓也、石川学	①			
(3)認知症に伴うところとからだの変化と日常生活			2		2	R7.7.26	三田卓也	①			
(4)家族への支援			1		1	R7.7.26	三田卓也	①			
8	障害の理解		(1)障害の基礎的理解	3	1	1	R7.8.2	石川学、結城敦也	②		
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識			1		1	R7.8.2	石川学、結城敦也	②			
(3)家族の心理、かわり支援の理解			1		1	R7.8.2	石川学、結城敦也	②			
9	ところとからだのしくみと生活支援技術	イ 基本知識の学習	(1)介護の基本的な考え方	10～13	3	3	R7.8.2	佐藤美千恵	①		
(2)介護に関するところのしくみの基礎的理解			4		4	R7.8.9	阿部敏寛	①			
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解			4		4	R7.8.9	阿部敏寛	①			
ロ 生活支援技術の講義・演習 （この項目の合計時間（50～55時間）のうち半分程度（25時間以上）は演習を行うこと）		(4)生活と家事	3	3	6	R7.8.23	高橋真智子	①			
		(5)快適な居住環境整備と介護	3	3	6	R7.8.30	加藤真道	⑦			
		(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	4	7	R7.9.6	高橋真智子	①			
		(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	6	R7.9.13	三浦智、千葉重矢	①			
		(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	4	7	R7.9.27	小野寺洋子、後藤祥	⑩			
		(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	6	R7.9.21	橋本珍成	①			
		(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	4	7	R7.10.4	遠藤英子、門田さゆり	①			
		(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	1	2	3	R7.10.11	千葉勝典	⑤			
		(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	2	2	4	R7.10.11	山田文子	⑤			
ハ 生活支援技術演習		(13)介護過程の基礎的理解	10～12	6	6	R7.10.18	佐藤智鶴	①			
		(14)総合生活支援技術演習		3	3	6	R7.10.25	金野泉	①		
10	振り返り		(1)振り返り	4	3	3	R7.11.1	結城敦也	⑥		
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修			1		1	R7.11.1	結城敦也	⑥			
	実習	【実習を実施する場合、その内容を記入】		実習を実施する場合、 対応する研修項目・科目を「備考」欄に記載すること							
		【実習を実施する場合、その内容を記入】									
		【実習を実施する場合、その内容を記入】									
	修了評価			1		1					
	合 計 ※修了評価は除く			130	99	28	130				

(注1) 研修を行う順序は「1 職務の理解」を最初に行い、「10 振り返り」を最後に行うこと。

(注2) 「9 こととからだのしくみと生活支援技術」については、「イ 基本知識の学習」、「ロ 生活支援技術の講義・演習」、「ハ 生活支援技術演習」の順に行うこと。

(注3) 「9 こととからだのしくみと生活支援技術」には、介護に必要な基礎的知識の理解の確認と、生活支援技術の習得状況の確認を含む。

(注4) 講義と演習を一体的に実施すること。

(注5) 別紙2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針及び研修カリキュラム」及び別紙3「介護職員初任者研修(各項目の到達目標、評価、内容)」を踏まえて実施すること。

(注6) 修了評価(1時間以上)は全研修項目終了後に筆記試験により実施すること。

(注7) 「1 職務の理解」及び「10 振り返り」において、施設の見学等の実習を活用するほか、効果的な研修を行うため必要があると考えられる場合には、他のカリキュラムにおいても施設の見学等の実習を活用することも可能。

(注8) 実習を行う場合は、実習施設の機能や役割、各実習の目的及び実習についての注意事項等について、あらかじめオリエンテーションを実施すること。

(注9) 各カリキュラム内の時間配分については、内容に偏りがないよう、十分留意すること。

(注10) 研修課程修了まで、1年以上となる高等学校において、月日・時間の詳細が決定できない場合は、研修実施年月を記載すること。

(注11) 研修の時間は休憩時間を除いた時間とすること。